

事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

当期における国内経済をみると、上半期は海外経済の回復などを受けてアジア向けを中心に輸出が持ち直し、雇用・所得環境の改善等から個人消費も持ち直しの動きが続く中、緩やかな回復基調が続いています。

一方、県内経済は、企業における人手不足の影響のほか日照不足や低温による農作物の生育の遅れなどが懸念されたものの、前年度からの持ち直しの動きを継続し全体的には緩やかな回復基調が続いています。

当社においては、4月から通勤定期割引率の改定により定期の乗車人員が増加したものの、昨年度に引き続き、大手旅行会社の三陸へのツアー販売が減少し、観光客利用の減少がみられました。

しかし「お座敷列車北三陸号」、「こたつ列車」、「ランチ&スイーツ列車」などの観光列車の運行のほか、「花見かき列車」、「久慈秋祭りツアー列車」などの地域連携企画、養命酒製造株式会社とのコラボ企画「養命酒こたつ列車」の運行による地域外からの誘客、また、企業ヘッドマーク及び車両ラッピングなど企業等との連携により、利用者の増加に努めてきました。

また台湾からの観光客取り込みを見据え、東北・函館の民鉄・第三セクター13社で、「東北・函館ローカル鉄道共同パス」の発売を行いました。

さらには、関連事業において、引き続き震災学習列車、被災地フロントライン研修等により、震災学習への需要対応を図りました。

しかし、平成 26 年 4 月の全線運行再開から 4 年が経過し、「あまちゃん」効果も薄れつつあるなかで、平成 27 年 12 月に発生した土砂崩壊により J R 山田線盛岡～宮古間が 11 月まで運行休止、さらに夏季シーズンの天候不順などが影響し、第 37 期の鉄道事業収入は前年度比 95.1%の 285,619 千円、輸送人員は定期の人員が増加し前年度比 101.8%の 522,068 人となりました。

また、関連事業においては、観光客の減少による駅売店等の売上の減少が続き、旅行業部門においても、被災地視察の需要減などにより、関連事業収入は前年度比 99.9%の 56,787 千円となりました。

更に経常費用については山田線移管に向けた社員の新規採用で人件費が増加するとともに、昨年度に引き続き原油価格の高騰による燃料費の増加などにより、前年度比 101.0%の 583,936 千円となりました。

その結果、経常利益は▲232,181 千円となり、特別利益等を加えた当期純利益は▲30,573 千円と前年度と比べて 29,152 千円の増益、計画と比べて 32,394 千円の減益となりました。

なお、当社では、安全・安心な輸送を確保するため、老朽化した通信ケーブルの更新、トンネル・橋梁等の改修工事を行い、社員の外部訓練会、研修会への派遣など障害事故の事故防止に取り組み、障害事故 0 件を継続しています。

【損益の状況】

(単位：千円※税抜)

項目	29年度 実績	28年度 実績	前年度 増減	前年度比	29年度 計画	計画増減	計画比
鉄道事業収入	285,619	300,484	▲14,865	95.1%	337,000	▲51,381	84.8%
関連事業収入	56,787	56,799	▲12	99.9%	67,850	▲11,063	83.7%
営業外収益	9,349	5,152	4,197	181.5%	5,000	4,349	187.0%
経常費用	583,936	578,008	5,928	101.0%	599,482	▲15,546	97.4%
経常利益	▲232,181	▲215,573	▲16,608	—	▲189,632	▲42,549	—
当期純利益	▲30,573	▲59,725	29,152	—	1,821	▲32,394	—

2 営業の概況及びその成果

(1) 鉄道事業営業概況

① 輸送実績

平成29年度の乗車人員については、定期外が前年度比97.6%となりましたが、定期は前年度比106.2%となりましたので、全体では前年度比101.8%の522,068人となりました。

運輸収入については一般個札97.4%、観光団体85.2%となったことなどが影響し、前年度比97.1%の256,576千円となりました。

【輸送実績】

(単位：人、千円※税抜)

項目	29年度	28年度	増減	前年度比	22年度
乗車人員	522,068	513,082	8,986	101.8%	851,456
定期	265,634	250,215	15,419	106.2%	469,980
定期外	256,434	262,867	▲6,433	97.6%	381,476
(北リアス線)	(383,411)	(379,042)	(4,369)	(101.2%)	(617,750)
(南リアス線)	(138,657)	(134,040)	(4,617)	(103.4%)	(233,706)
運輸収入	256,576	264,190	▲7,614	97.1%	322,534
定期券	56,903	55,994	909	101.6%	92,698
一般個札	114,908	117,995	▲3,087	97.4%	138,715
観光個札	19,833	20,170	▲337	98.3%	25,741
一般団体	33,264	32,876	388	101.2%	16,062
観光団体	31,668	37,155	▲5,487	85.2%	49,318

② 運転状況

平成29年度の定期列車については、北リアス線では宮古～久慈間を1日22本、普代～久慈間を同じく1本、田野畑～久慈間を平日に1日2本、それぞれ運転しました。南リアス線では、盛～釜石間で1日20本を運転しました。(平成28年度と同数の本数を運転)

[運転状況]

駅間	宮古～久慈	普代～久慈	田野畑～久慈	盛～釜石
列車本数	22本	1本	2本*	20本

* 田野畑～久慈間は土休日運休

③ 観光列車及びイベント列車等

通常運転の列車に加え、観光列車及び地元団体や企業との共催によりイベント列車を随時運転しました。

また、ヘッドマーク掲出やラッピング等の実施のほか、スタンプラリーなど他社との連携した企画も積極的に実施しました。

さらに、平成 29 年度のお座敷列車から、宮古発の復路を臨時ダイヤで運行し、新メニューとして「大漁舟唄御膳」を追加しました。

【主な観光列車】

お座敷列車北三陸号 北リアス線（4月29日～10月9日）[1,682人]

こたつ列車 北リアス線（12月16日～3月31日）[2,881人]

ランチ&スイーツ列車 南リアス線（GW、夏休み、秋の連休、正月期間）[349人]

このほか南リアス線で J R 釜石線 S L 銀河の運転に合わせ、土曜日に南リアス線でレトロ列車銀河リレー号を運転しました。

【主なイベント列車】

- ・北リアス線 かいけつゾロリ列車（夏休み期間）[712人]、花見かき列車（4月28日）[30人]、魚彩王国 in 龍泉洞復活祭ツアー（6月25日）[80人]、久慈秋祭りツアー列車（9月17日）[33人]、毛ガニ祭りツアー列車（3月4日）[45人]等
- ・南リアス線 くずまきワイン列車（6月10日）[26人]、クリスマス列車（12月17日・24日）[80人]、酔仙新酒列車（2月24日）[32人]、大槌町町民号（2月24日）[50人]、ほろ酔い寄席列車（3月24日）[41人]等
- ・共通 アサヒスーパードライ号（6月23日・24日）[176人]、お絵かき列車（7月～10月三鉄協事業）[591人]、ベアレンビール列車（南7月8日・北8月31日・11月23日）[128人]等

④ 新企画乗車券の発売等

- ・湯ったり日帰りきっぷをシリーズ化しました。（くろさき荘に加え、えぼし荘、夏虫の湯っこ、五葉温泉、休暇村陸中宮古を追加）[571人]
- ・三陸鉄道ジオ鉄フリー切符を発売しました。[187セット]
- ・中高生用南リアス線フリー乗車券を発売しました。（南リアス線で試行）[254枚]
- ・東北・函館ローカル鉄道共同パス（13社利用）を1月1日から発売しました。[11枚]

⑤ 企業等との連携

- ・養命酒製造株式会社とのコラボ企画として室内を養命酒仕様で運行しました。（12月16日～1月14日）
- ・東京地下鉄、I G Rいわて銀河鉄道、岩手県北自動車、J Rバス東北との5社共同企画でぐるっとスタンプラリーを開催しました。（4月29日～7月2日までが東京ステージ、7月1日～10月1日までがきたいわてステージ）
- ・三鉄協事業として12月～1月までの期間、南リアス線でかいけつゾロリスタンプラリーを実施しました。
- ・企業ヘッドマーク及び車体ラッピングをしました。
ヘッドマーク クラブツーリズム（株）、（株）阪急交通社、三井不動産（株）等
車体ラッピング イオンリテール（株）、ラグビーワールドカップ 2019™（沿岸広域振興局）

(2) 関連事業営業概況

① 旅行業

着地団体においては、被災地フロントライン研修が、被災地の経年変化や震災に対する風化等により減少傾向が顕著であり、取扱いの中心が大型客船寄港時(久慈港・宮古港・釜石港・大船渡港・八戸港)のオプションツアーに移行しています。

また、三鉄協事業として受託している募集型企画の「かいけつゾロリ」企画は好調を維持しているほか、地域の団体旅行や修学旅行の販売等も継続実施しています。

【主な旅行業の実績】

- ・着地団体：フロントライン研修 12件 471名参加（前年度10件 184名）
- ・教育団体：中学校・高校修学旅行 5校 294名参加（前年度5校 317名）
- ・一般団体：大型客船寄港OPツアー 7件 414名参加（前年度10件 598名）
- ・募集团体：かいけつゾロリ列車企画 17回 712名参加（前年度16回 776名）
- ・震災学習列車：165件 7,756名参加（前年度177件 8,423名参加）

② 物産事業

ア オリジナル商品の開発・販売

・イトーヨーカ堂の復興支援企画（東北かけはしプロジェクト）による「三陸鉄道コラボ商品」を発売（3月3日～4月8日）

「すみっこぐらしコイン&パスケース+限定nanaco」等、計10品

・三鉄ギフト（夏・冬）の販売（夏・冬ともに、前年度より売上増加）

夏（6月5日～8月31日）[7,895千円]・冬（11月1日～1月31日）[7,564千円]

・地元企業とのコラボレーションによる三陸鉄道バレンタイン2018企画を実施

久慈市 洋菓子ミリオンベル 「久慈ありすのバレンタインショコラ」[108個完売]

大船渡市 おおうらや 「釜石まなのバレンタインショコラ」[108個完売]

イ イベント外販

・国体開催1周年記念イベントへの出店

・沿線市町村の産業まつり等の地域イベントへの出店

・県外イベント（イオン与野にぎわい東北フェア、東北鉄道フェスタ、よこすかYYのりものフェスタ等）への出店

・県庁・釜石合同庁舎等での即売会実施[6回実施]※前年度1回

ウ ふるさと岩手応援寄附

・岩手県のふるさと岩手応援寄附による、三陸鉄道支援に対する返礼品等の発送

(3) 安全安定輸送への取組

当社においては、安全、安心でかつ安定的な運転の確保に努めており、平成29年度も老朽化が進んだ施設・設備の更新、改修・維持補修を順次、実施しました。

また、保安設備についても新增設が必要な個所への設置、規制区間等の見直しを行うとともに、社員を外部訓練会に参加させる等の教育訓練を行いました。

さらに、社内においては定期的に安全管理委員会を開催するとともに、安全総点検、社内監査などを実施しました。

① 安全対策事業

- ・鉄道施設総合安全対策事業

北リアス線第2 普代川橋梁改修工事

北リアス線小本～田野畑駅間通信ケーブル更新

南リアス線トンネル修繕工事（佐野・綾里・第2 白浜・羅生・石塚・熊ノ木トンネル）

② 保安対策事業

- ・外部訓練への参加
- ・安全管理委員会の定例開催及び安全総点検、社内監査の実施
- ・異常時対応の実車訓練を実施（車両故障による伝令法）

(4) 支援の状況

当社は、厳しい財政状況から国、県、市町村等から必要な支援を受けており、今期においては、次のとおり支援を受けました。

・鉄道軌道安全輸送等整備事業	168,017 千円
・運営費補助（設備維持補助）	154,000 千円
・釜石駅維持管理運営事業	2,000 千円
・山田線経営移管交付金	48,356 千円

3 対処すべき課題

平成 26 年 4 月の全線運行再開から 4 年が経過し、全線運行再開や「あまちゃん」ブームといった効果も減少しているなか、J R 山田線盛岡～宮古間が 11 月まで運行休止、さらに夏季シーズンの天候不順などが影響し、第 37 期（平成 29 年度）は厳しい経営状況となりました。

また、東日本大震災津波から 7 年が経過し、復興事業はかかなり進捗してきているところですが、防災集団移転事業などにより駅周辺から高台に集団で移転した地区の発生や、震災前から見られた少子高齢化の進展による沿線人口の減少、モータリゼーションの進行など、今後さらに厳しい経営環境になることが見込まれ、全社を挙げた増収対策や経営改善など、あらゆる努力を行っていきます。

さらに、平成 26 年 3 月に認定を受けた「鉄道事業再構築実施計画」は平成 30 年度で終了することから、新たな再構築計画の策定作業を進めながら、「安全運行の創造」、「顧客価値の創造」、「共通価値の創造」を目標に、安全性・利便性の向上を図り、投資計画・経費構造の抜本的な見直しや、組織体制の強化、人員の確保と適正な配置など経営資源の効率的な運用を進め、住民の利便性やニーズに配慮したダイヤの設定や定期運行、多くの皆様が楽しめるイベントや企画列車の実施など地域の方々に日々愛され、利用される鉄道にしていきます。

また、平成 31 年度に予定されている「三陸復興防災プロジェクト 2019」や釜石市において開催される「ラグビーワールドカップ 2019TM」への対応や、外国人観光客を含めた交流人口の拡大を柱として利用促進・販売促進の取組を強化し、持続的な路線維持に向けた運営に努めていく必要があります。

今後、平成 31 年 3 月の J R 山田線（宮古～釜石間）の経営移管により、大船渡市から久慈市までの鉄道路線として一体運営を行うことから、経営の効率化を前提に地域住民の足としての役割を担うとともに、日本で最も長い第 3 セクター鉄道として、また、「三陸復興」のシンボルとして、沿岸地域をけん引していきます。

4 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 168,017 千円であり、その内容は次のとおりです。

○ 鉄道軌道安全輸送等整備事業	168,017 千円
(1) 小本～田野畑駅間通信ケーブル更新	63,607 千円
(2) 北リアス線第2 普代川橋りょう塗装改修工事	88,529 千円
(3) 南リアス線佐野トンネル外5 修繕工事	15,881 千円

5 資金調達の状況

該当する事項はありません。

6 直前3 事業年度の財産及び損益の状況

区 分	26 年度 (第 34 期)	27 年度 (第 35 期)	28 年度 (第 36 期)	29 年度 (第 37 期)
営業収益	528,494 千円	446,569 千円	362,435 千円	351,755 千円
当期純利益	86,831 千円	5,958 千円	▲59,725 千円	▲30,573 千円
1 株当り当期純利益	2,892 円	198 円	▲1,990 円	▲1,019 円
総資産合計	530,186 千円	511,679 千円	720,146 千円	460,389 千円

7 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- (1) 鉄道事業法による第1 種鉄道事業及びこれに附帯関連する事業
- (2) 旅行業法による第2 種旅行業
- (3) 物品販売業

8 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社 宮古市栄町4 番地

事業所 ・事業本部 宮古市栄町4 番地
宮古駅 宮古市栄町4 番地
施設管理部 久慈市川崎町10 番20 号
・北リアス線運行部 久慈市川崎町10 番20 号
・南リアス線運行部 大船渡市盛町馬場4 番4 号
釜石駅 釜石市鈴子町22 番5 号
盛駅 大船渡市盛町字東町裏16

※市町村等への業務委託駅：久慈駅・陸中野田駅・普代駅・田野畑駅・島越駅・岩泉小本駅
三陸駅・綾里駅・(休業駅：田老駅)

9 従業員の状況

(平成30年3月31日現在)

区 分	従 業 員 数	平 均 年 齢	平均勤続年数
男 子	72 名	44.3 才	21 年 2 ヶ月
女 子	3 名	28.7 才	1 年 0 ヶ月
計	75 名	43.7 才	20 年 4 ヶ月

※ このほか臨時雇用従業員17名、パート従業員2名、岩手県から1名を受入れています。
なお、平成30年3月31日付で1名が退職しました。

10 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県及び岩手県内市町村から発行済み株式総数の75.3% (22,600株)の出資を受けています。

※ 岩手県48% (14,400株)、沿線市町村19.3% (5,800株)、沿線外市町村8% (2,400株)、岩手県知事が取締役会長に就任しています。

II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000株
- 2 発行済株式の総数 30,000株
- 3 当事業年度末の株主 46名
- 4 主な株主の状況

株主名	持株数	持株比率
岩手県	14,400株	48.0%
宮古市	1,350株	4.5%
(株)岩手銀行	1,200株	4.0%
大船渡市	1,150株	3.8%
新日鐵住金(株)	1,000株	3.3%
東北電力(株)	1,000株	3.3%
一関市	700株	2.3%
久慈市	650株	2.2%
釜石市	650株	2.2%

III 会社役員に関する事項

1 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達増拓也	岩手県知事
取締役副会長	山本正徳	宮古市長
取締役副会長	戸田公明	大船渡市長
取締役副会長	遠藤譲一	久慈市長
取締役副会長	野田武則	釜石市長
代表取締役社長	中村一郎	
取締役	石原弘	田野畑村長
取締役	柁屋伸夫	普代村長
取締役	小田祐士	野田村長
取締役	堂本昭彦	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	大井誠治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
監査役	田口幸雄	(株)岩手銀行 代表取締役頭取
監査役	石塚恭路	(株)北日本銀行 代表取締役専務

2 取締役又は監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,115 千円

監査役の報酬はありません。

IV 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。